ソレイユ眼科・矯正歯科

木・土曜日の午後はコンタクトの処方をおこなっておりません。矯正歯科も診療時間変更しております

リポ・カプセルビタミンC

ビタミンCをサプリメントで経口摂取するときに問題なのが、消化管のバリア機能の存在と早い排泄です。ビタミンCを血液の中に二g、送り込むために、一〇g以上のビタミンCの錠剤、あるいは粉末を口に入れなくてはいけません。さらに、消化管のバリアによって、投与量に比例して吸収抑制が高まります。吸収量を上げるためにたくさんのビタミンCを服用すればいいというものではないのです。

加えて、ビタミンCは排泄が早いので、点滴のように血中濃度を高くできません。アメリカの国立衛生研究所(NIH)によれば、いくら大量に摂取しても、一定の血中濃度を超えることは不可能でした。

その欠点を改善し、体への吸収率を高くしたビタミンC製剤が「リポ・カプセルビタミンC」です。ビタミンCをリポソームカプセルに内包することにより、腸内からの吸収が高まり血中にビタミンCを届ける効果を最大限に高める経口サプリメントです。

リポソームの特徴であるリン脂質によってできる膜により、内包されるビタミンCを消化液や酸化から保護します。そして、消化管の壁をたやすく通過し、免疫系であるリンパ液、そして血中へ、さらには目的地である細胞へ直接ビタミンCを放出するといわれています。このサプリメントは、一包で一〇〇〇mgのビタミンCを摂取できます。

★リポソーム型ビタミンCの利点★

- 肝臓での初回通過代謝をバイパスし、リンパ管から体循環へと直接届ける。
- 腸内リンパ管などリポソームが届く範囲の重要な免疫細胞に、ビタミンCを効果的に取り込むことができる。
- 被包されたビタミンCを肝臓内の免疫細胞へ届ける。
- 以上の要素によって、大量のビタミンCを静脈投与したときに近い臨床的効果が得られる。

ビタミンCは結核菌を殺す

二〇一三年、アメリカのアルベルト・アインシュタイン医学校の微生物学研究グループは、ビタミンCには結核菌を殺す作用があるとイギリスの科学雑誌「ネイチャー」に発表しました。ビタミンCが過酸化水素を作り出し、結核菌を殺すというのです。このメカニズムはビタミンCがん細胞を殺すメカニズムと同じです。

ビタミンCは炎症を抑える作用があり、一般的な感染症にも有効で、病状の悪化を防ぐ効果があります。これまでの多くの研究から、ビタミンCは肺炎、扁桃炎、膀胱炎、副鼻腔炎、皮膚炎などさまざまな細胞感染症に有効であり、抗生物質治療にビタミンCを加えることで、治療するまでの期間を劇的に短縮できるといわれています。

高濃度ビタミンC点滴療法Q&A

★ビタミンC点滴はだれでも受けることができますか?

→高濃度ビタミンC点滴療法は、副作用がほとんどない安全ながん治療ですが、赤血球を正常に機能させるG6PDという酵素が欠損している人は受けることができません。G6PD欠損症は遺伝的なもので、日本人には0・五%程度しかいない珍しい病気です。念のため、初めて高濃度ビタミンC点滴療法を受ける前には採血し、G6PDの測定検査を必ず受けなくてはなりません。

高濃度ビタミンC点滴療法は抗がん剤との併用で抗がん剤の効果を高めます。しかし例外もあります。高濃度ビタミンC点滴の併用で、多発性骨髄腫の治療に使われるベルケイドという薬の効果が弱くなってしまいます。また、慢性白血病治療などに使われるメトトレキサートの投与中は、高濃度ビタミンC点滴療法により腎臓に重篤な副作用を生じることがあるので、注意が必要です。また、腎不全・心不全の方、胸水や腹水がある患者さんの場合は慎重に行う必要があります。

★なぜがん治療には経口ではなく、静脈注射なのですか?

→がん治療に使うビタミンCの投与量は、一回当たり五〇〜一〇〇gと大量です。レモン二五〇〇〜五〇〇〇個分にも相当する量のビタミンCを、口からではなく、直接点滴で静脈に投与することで、ビタミンCの血中濃度を数百倍に高めることができます。ビタミンCの血中濃度が高まると、その成分は血管の外にしみ出して過酸化水素という活性酸素を作り出します。この活性酸素ががん細胞に取り込まれることで、がん細胞は細胞死に向かいます。経口では点滴のような高い血中濃度にすることはできません。